

平成 20 年度 活動報告

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動は会員の皆様からの会費によって成り立っています。

2008 年度は 109 名の会員様から、日本事務局が総額 1,246,208 円を お預かりし、その 40.3%を直接クリニックへ拠出いたしました。残りの 55.2%を翌年度以降の活動のための積み立て金に、4.5%を日本国内での消耗品・備品等の需用費等に充てさせていただきました。

JAM では、より多くの支援がミャンマーの移民労働者や孤児に届くよう、活動の効率的な実施と JAM の活動にご理解をいただくための広報活動に努めています。

当会の活動に引き続きご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 20 年度における活動の要旨：

平成 20 年 3 月に発足した当会は、メータオ・クリニックに対して駐在員(看護師)を派遣し、スタッフ教育などの技術支援のほか、施設、設備の改善も実施しました。また、クリニックと共同で学校保健プロジェクトを実施するなど、難民・移民の保健・医療に対する支援を行ってまいりました。2009 年 3 月 31 日現在、運営スタッフ 20 名、賛助会員 104 名、寄付者 26 名(賛助会員の寄付と古着支援 4 名を含む)です。

活動報告：

1) 日本事務局の活動

① 人材派遣と育成

08 年度は梶藍子(看護師)を派遣、組織的に技術支援を開始しました。7 月には、第 1 回となるスタディツアーを主催。会員の方に、支援の現場を見て感じてもらう機会となりました。国際保健分野での活動の場を提供し、情報共有を図ることで、国際保健に資する人材の育成を目指しています。

② 戦略的な広報活動

学術面では、国際保健医療学会などで活動を報告しました。一般向けにインターネット、テレビ、新聞による広報活動を通じ、これまでに取り上げられたものは以下の通りです。

09年3月13日, 読売朝刊, 「タイの中のミャンマー メットを訪ねて 難民の街 病気と貧困く上」
09年2月19日, 共同, 「ミャンマー難民支援し20年 タイ国境の無料診療所」
09年1月20日, 毎日朝刊, 「タイでミャンマー難民を支援する看護師 梶藍子さん」
08年10月29日, 日本テレビ NEWS ZERO, 「病院求め決死の出国～医療さえ受けられぬミャンマーの現実」

これらの放送や掲載の直後には反響も大きく、入会希望者が増えました。また、シンシア医師に関する翻訳本の出版も決定しており、著者らの印税は当会を通じ全額寄付されることになっています。

③ 定例会の開催

現地事務局とつないで、東京で月一回の定例会を開催。会の意思決定とともに、広報資料作り、支援者へのプレゼント発送などの作業を担っています。

平成 20 年度 活動報告

④ 物資の支援

会員様より古着を送付していただいたり(7件)、現地訪問時に持ち込んでいただいたりしました(6件)。それらの合計はダンボール 18 箱分で、約 180kg相当になります。

2) 現地事務局の活動

① 院内感染対策

メータオ・クリニックでは年間外来患者数 11 万人、入院患者数 9 千人と多くの患者さんを支えています。その多くの患者さんはマラリア、HIV/AIDS、栄養失調、結核等の治療のためクリニックを訪れます。そうした膨大な患者数、患者層から患者間、さらにはクリニックで働く医療従事者への院内感染のリスクが非常に懸念されており、その感染症の蔓延を防ぐためにメータオ・クリニックでは 2005 年に院内感染予防チームが結成されました。現地スタッフはこの感染予防チームに参加し、スーパーバイザーとして院内での感染予防対策の活動に取り組んでいます。

感染対策チームでは、院内共通の感染予防対策のガイドラインを作成、医療従事者への院内感染予防訓練の開催、感染症対策の基本となる手洗い遵守の観察調査等の活動を行っています。当会は技術的活動のみならず、感染予防チームの活動にかかわった結核用患者のマスク(患者及び医療従事者に対して)、手指速乾性アルコール消毒のためのボトル、手洗い場増設を含んだ内科病棟改修等の支援を行いました。

② 学校保健支援

現地スタッフは実際にクリニックの学校保健チームの活動に参加し、半年毎のビタミン A・駆虫剤投与、眼科検診、健康教育を行いました。さらに学校保健に基づいた教育課程を充実したものにすべく学校の先生に、手洗い、歯磨き等の衛生教育、救急処置等の訓練を開催しました。さらに学校保健を支援する他の国際 NGO や現地のタイ・ミャンマー/ビルマのコミュニティー組織と定期的会議を開き学校保健改善の成果を共有しています。

タイ・ターク県には、ビルマ・ミャンマー移民の児童ための小学校が 50 校ほど校存在しています。これらの学校保健について、クリニックが従前から支援していましたが、体系的な評価や支援は実施されることはありませんでした。そのため、本会はクリニックと共同で学校保健プロジェクトを開始しました。まず、学校保健について介入前評価(08 年 2 月)を実施しました。その後、介入としてワークショップが開催(08 年 7 月)、介入後評価(08 年 2 月)が実施されました。これにより、介入前・後で、参加した 43 学校のうち、42 学校で総合得点が上昇したほか、初めて、移民の学校保健の状況が明らかになりました。評価調査で得られた経験やデータは、クリニックや国際的な NGO などと共有され、支援の参考とされるほか、今後、教師たちにより、それぞれの学校についての自己評価が行われることが期待されています。

(文責: 広報担当 秋山剛、梶藍子、岡谷賢孝)